

海外現地法人の動向（要旨）

海外現地法人四半期調査（平成 18 年 10-12 月期）

平成 19 年 3 月 22 日
調査統計部企業統計室

<今回調査のポイント>

平成 19 年 4-6 月期の先行きDI

○売上高の先行きは改善を見込み、高い景況感を持続

現状判断は悪化したが、先行きは、輸送機械を除くすべての業種及び欧州を除くすべての地域の改善により、改善を見込む。すべての地域で2桁台のプラス水準にあり、高い景況感を持続。

○設備投資額の先行きは改善を見込む

現状判断は悪化したが、先行きは、NIEs3 を除くすべての地域の改善により、改善を見込む。引き続きすべての業種及びすべての地域でプラス水準。

○従業者数の先行きは改善を見込む

現状判断はわずかに改善し、先行きも改善を見込む。中国は引き続き2桁台の水準。

平成 18 年 10-12 月期の実績

○売上高は前年同期比 7.2%増、伸び率は3期連続で緩やかに回復

- ・業種別では、輸送機械は原油価格の軟化等から伸び率が回復し、その他の業種は伸び率は低下したものの引き続き増加。
- ・地域別では、欧州は伸びを高め、アジア地域及び北米は伸びは鈍化したが引き続き増加。中国は2桁台の増加を持続も伸び率はやや低下。輸送機械は引き続き好調。欧州は6期ぶりに2桁台の増加。輸送機械が増加に転じ一般機械が大幅に増加。ASEAN4 は4期連続1桁台の増加。輸送機械はタイの自動車の好調などから伸びを高めたが、電気機械は減少に転じた。北米は輸送機械は増加に転じたが、電気機械の減少などから2期連続の低い伸び。NIEs3 は台湾の輸送機械の不振などから4期連続で減少も、減少幅は縮小。

○設備投資額は前年同期比 15.3%増、3 期連続大幅増加

- ・業種別では、輸送機械が3期ぶりに1桁台の増加にとどまるも、その他の業種は大幅に増加。
- ・地域別では、アジア地域は3期連続で大幅に増加し、欧州は2期連続で大幅に増加。北米は輸送機械の減少などから、3期ぶりに減少。

○従業者数は前年同期比 3.0%増と引き続き増加

引き続き中国を中心にアジアで増加したが、伸び率はやや低下。欧州は微増ながら3期連続増加。北米は減少が続く。

調査時点：平成 19 年 2 月中旬

1. 売上高

先行きDI*1は22.2%ポイントで、改善を見込む。実績は前年同期比7.2%増と、伸び率は3期連続で緩やかに回復。

- **現状判断DI** (19年1-3月)は11.3%ポイントと、前期現状判断DI (18年10-12月)に比べ悪化。アジア地域は春節の影響などからすべての地域で悪化し、電気機械及びNIEs3はマイナスの水準。北米及び欧州は改善し、2桁台の水準。

先行きDI (19年4-6月)は改善を見込み、20%台の水準に回復。輸送機械を除くすべての業種で改善を見込む。アジア地域は、輸送機械を除くすべての業種及びすべての地域の改善により、大幅な改善を見込む。北米は電気機械の改善などから改善を見込む。欧州は電気機械の大幅な悪化などから悪化を見込むも、2桁台の水準を維持。すべての業種及びすべての地域で2桁台のプラス水準にあり、引き続き高い景況感を持続。

- **実績** (18年10-12月)は前年同期比7.2%増と、伸び率は3期連続して緩やかに回復。

業種別では、輸送機械が伸びを高めた。その他の業種は伸び率が低下したものの、一般機械は4期連続2桁台の増加と堅調。電気機械は9期連続の1桁台増加。

地域別では、欧州は伸び率を高めたが、アジア地域及び北米はわずかに伸び率を低下。アジア地域(前年同期比9.2%増)は、ASEAN4*2及び中国*3の伸びの鈍化から1桁台の増加にとどまった。中国(同13.0%増)は引き続き2桁台の増加。輸送機械は引き続き大幅に増加も、デジタル家電を中心とした価格の下落の影響等から電気機械は4期連続1桁台の増加にとどまった。ASEAN4(同7.9%増)は、4期連続で1桁台の増加。タイの自動車が輸出向けを中心に増加したことなどから輸送機械が伸びを高めたが、電気機械が再び減少に転じた。NIEs3*4(同▲0.1%減)は4期連続の減少となるも、減少幅はやや縮小。台湾の自動車が国内市場の冷え込みなどから引き続き大幅に減少。その他アジア(同23.5%増)では、インド及びベトナムが大幅に増加。北米(同1.5%増)は、前期減少の輸送機械が原油価格の軟化や低燃費車の現地生産の増加の影響等から増加に転じたものの、電気機械の5期ぶりの減少などから、2期連続で1%台の低い伸び。欧州(同10.3%増)は、6期ぶりに2桁台の増加。輸送機械が2桁台の増加に転じ一般機械が大幅に増加など、すべての業種で増加。

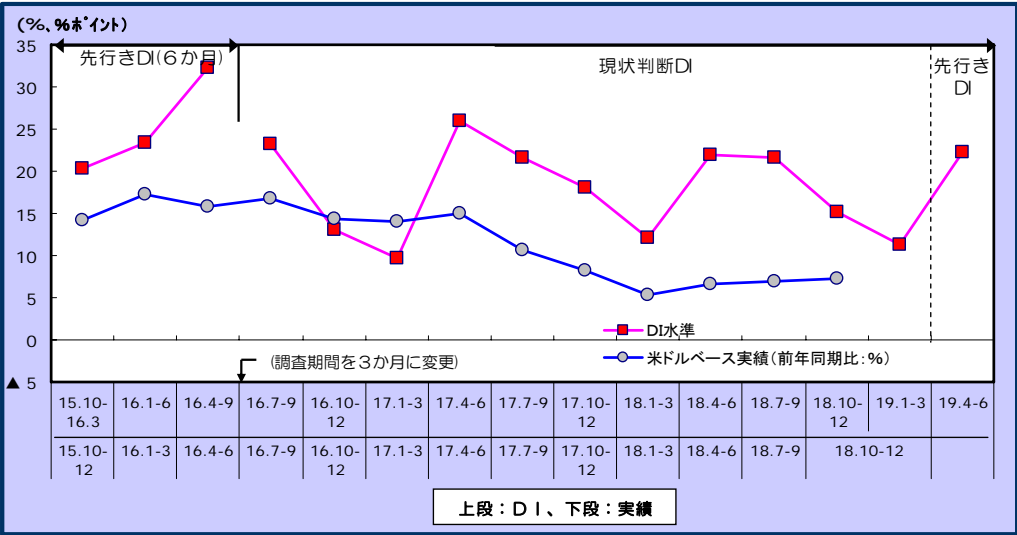
注 *1：調査時点を含む四半期（現状判断）及びその翌四半期（先行き）に関し、前期と比較した見通し
 ・DI＝「増加と回答した企業の割合」－「減少と回答した企業の割合」
 ・現状判断DIの前期比＝「今回調査現状判断DI（19年1-3月期）」－「前回調査現状判断DI（18年10-12月期）」
 ・先行きDIの前期比＝「今回調査先行きDI（19年4-6月期）」－「今回調査現状判断DI（19年1-3月期）」
 *2～4 ASEAN4：インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア 中国：香港を含む NIEs3：シンガポール、台湾、大韓民国

1表 売上高のDI及び実績（地域・主要業種別）

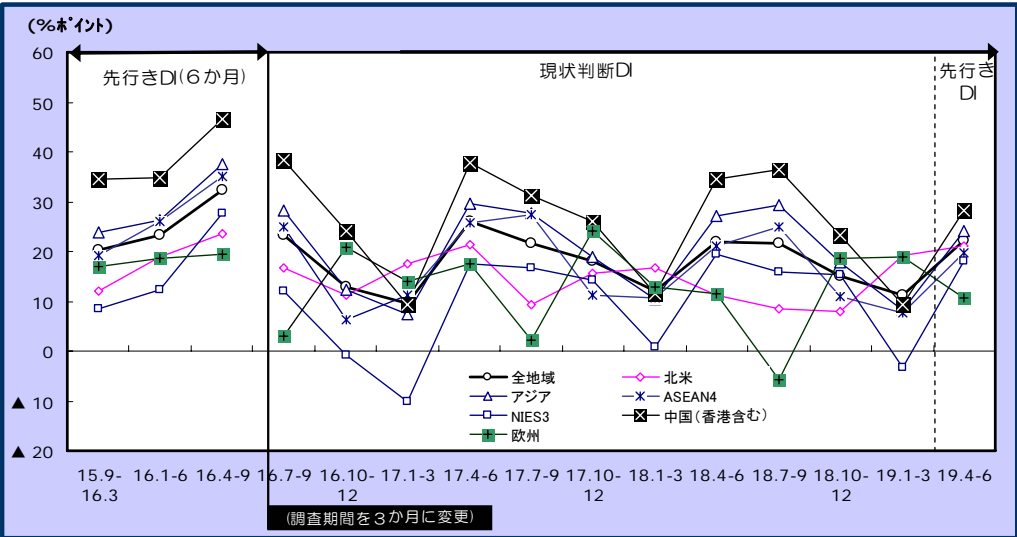
(単位：DI及びDI前期比→%ポイント、実績(前年同期比)→%)

| | DI | | | | | 実績 (前年同期比) | | |
|----------|---------------------|-------------------|------------------|---------------|------|---------------|--------------|-------|
| | 前期調査 | | 今 期 調 査 | | 前期比 | | | |
| | ①現状判断 (18.10-12) | ②現状判断 (19.1-3) | ③先行き (19.4-6) | 現状判断 (②-①) | | | 先行き (③-②) | |
| 計(地域・業種) | 15.2 | → | 11.3 | → | 22.2 | (▲ 3.9) | 10.9 | 7.2 |
| 北米 | 7.9 | → | 19.1 | → | 21.2 | (▲ 11.2) | 2.1 | 1.5 |
| アジア | 17.7 | → | 8.1 | → | 24.1 | (▲ 9.6) | 16.0 | 9.2 |
| ASEAN4 | 11.0 | → | 7.6 | → | 19.6 | (▲ 3.4) | 12.0 | 7.9 |
| NIEs3 | 15.3 | → | ▲ 3.3 | → | 18.0 | (▲ 18.6) | 21.3 | ▲ 0.1 |
| 中国(香港含む) | 23.2 | → | 9.3 | → | 28.1 | (▲ 13.9) | 18.8 | 13.0 |
| 欧州 | 18.6 | → | 18.9 | → | 10.8 | (▲ 0.3) | ▲ 8.1 | 10.3 |
| 輸送機械 | 20.1 | → | 29.1 | → | 24.4 | (▲ 9.0) | ▲ 4.7 | 9.8 |
| 電気機械 | 7.0 | → | ▲ 3.1 | → | 11.0 | (▲ 10.1) | 14.1 | 2.8 |
| 一般機械 | 25.4 | → | 14.3 | → | 20.1 | (▲ 11.1) | 5.8 | 12.0 |
| 化学 | 16.4 | → | 17.5 | → | 30.5 | (▲ 1.1) | 13.0 | 7.1 |
| 鉄鋼 | 8.4 | → | 12.9 | → | 20.3 | (▲ 4.5) | 7.4 | 3.4 |

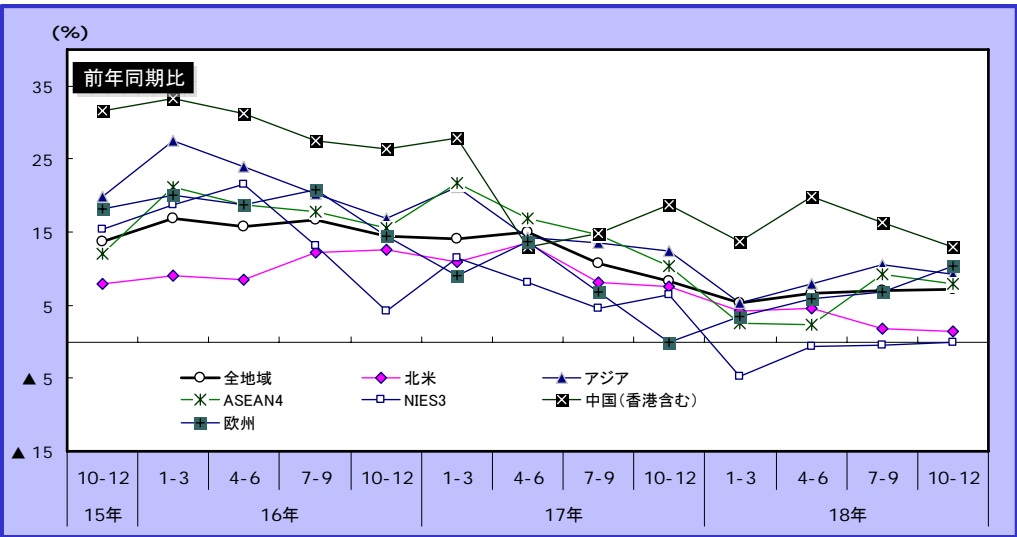
1 図 売上高のDI と実績（ドルベース）の推移



2 図 売上高DIの推移（地域別）



3 図 売上高実績（ドルベース）の推移（地域別）



2. 設備投資額(土地を除く有形固定資産取得額)

先行きDIは12.7%ポイントと、改善を見込む。実績は、前年同期比15.3%増と大幅に増加。

- **現状判断DI** (19年1-3月)は9.9%ポイントと、前期現状判断DI(18年10-12月)に比べ悪化。電気機械が悪化し、ASEAN4を除くすべての地域で悪化した。すべての業種及びすべての地域でプラス水準を持続。

先行きDI (19年4-6月)は12.7%ポイントと、一般機械及び鉄鋼を除く業種、ならびにNIEs3を除くすべての地域の改善により改善を見込み、2桁台の水準を回復。

- **実績** (18年10-12月)は前年同期比15.3%増と、伸び率は低下したものの3期連続で大幅に増加。

業種別では、電気機械及び化学が2期連続で大幅に増加、一般機械は伸びを高め、鉄鋼は増加に転じたが、輸送機械が3期ぶりに1桁台の増加にとどまった。

地域別では、アジア地域及び欧州は大幅な増加を続けたが、北米は減少に転じた。**アジア地域**(前年同期比41.2%増)は、3期連続で大幅に増加し、伸び率はさらに上昇。**ASEAN4**(同39.8%増)は、電気機械が4期連続で大幅に増加し、輸送機械及び一般機械が大幅増に転じたことなどから、伸び率は大幅に上昇。**NIEs3**(同26.5%増)は、伸び率は低下したものの2期連続で大幅に増加。IT関連の設備投資の増加等により化学及び電気機械が2期連続で大幅に増加したが、輸送機械及び一般機械は引き続き大幅に減少。**中国**(同13.0%増)は、輸送機械が伸び率は低下ながらも引き続き著しく増加し、電気機械が6期ぶりに増加したことなどから、2期連続で2桁台の増加。**その他アジア**(同227.2%増)では、インドが輸送機械を中心に著しく増加。**北米**(同▲12.5%減)は、前期大幅に増加した輸送機械が2桁台の減少に転じたことなどから、3期ぶりに減少。化学は3期連続で大幅増加。**欧州**(同16.0%増)は、2期連続で大幅に増加。化学は大幅な減少に転じたが、一般機械が建設関連を中心に2期連続で大幅に増加し、輸送機械が大幅に伸びを高めた。

2表 設備投資額のDI及び実績(地域・主要業種別)

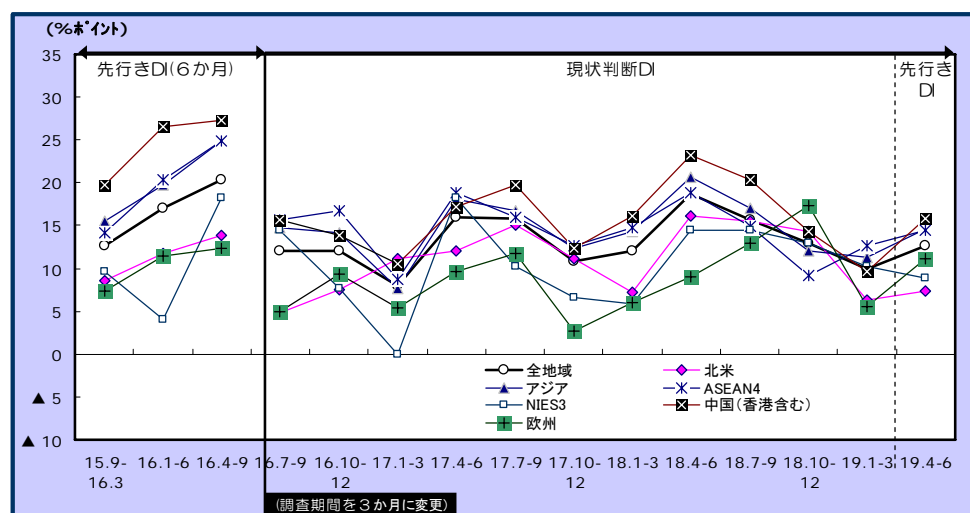
(単位：DI及びDI前期比→%ポイント、実績(前年同期比)→%)

| | DI | | | | | 実績 (前年同期比) | | |
|----------|---------------------|-------------------|------------------|---------------|--------------|---------------|------|-------|
| | 前期調査 | | | 前期比 | | | | |
| | ①現状判断 (18.10-12) | ②現状判断 (19.1-3) | ③先行き (19.4-6) | 現状判断 (②-①) | 先行き (③-②) | | | |
| 計(地域・業種) | 13.0 | → | 9.9 | → | 12.7 | (▲3.1) | 2.8 | 15.3 |
| 北米 | 14.3 | → | 6.3 | → | 7.3 | (▲8.0) | 1.0 | ▲12.5 |
| アジア | 12.1 | → | 11.3 | → | 14.6 | (▲0.8) | 3.3 | 41.2 |
| ASEAN4 | 9.2 | → | 12.6 | → | 14.4 | (▲3.4) | 1.8 | 39.8 |
| NIEs3 | 12.9 | → | 10.2 | → | 8.9 | (▲2.7) | ▲1.3 | 26.5 |
| 中国(香港含む) | 14.3 | → | 9.6 | → | 15.8 | (▲4.7) | 6.2 | 13.0 |
| 欧州 | 17.3 | → | 5.5 | → | 11.2 | (▲11.8) | 5.7 | 16.0 |

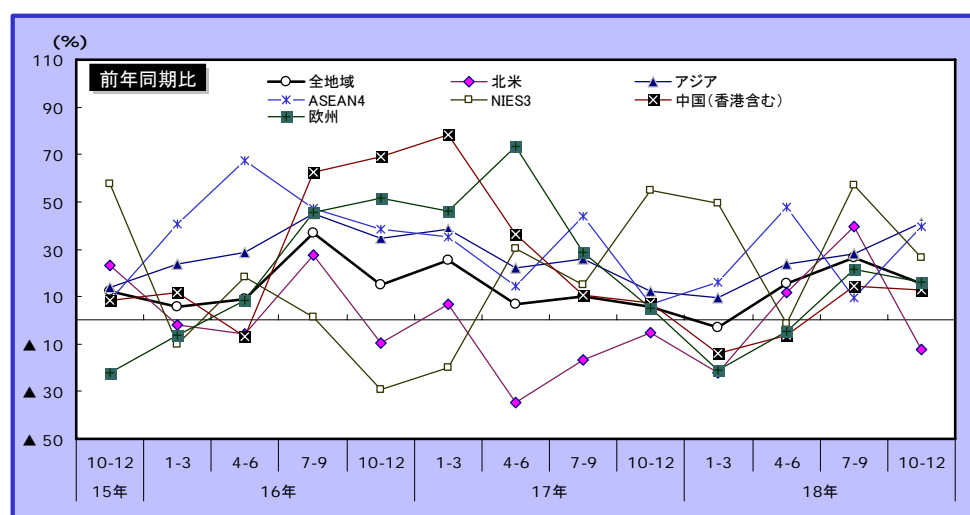
| | DI | | | | | 実績 (前年同期比) | | |
|------|---------------------|-------------------|------------------|---------------|--------------|---------------|------|------|
| | 前期調査 | | | 前期比 | | | | |
| | ①現状判断 (18.10-12) | ②現状判断 (19.1-3) | ③先行き (19.4-6) | 現状判断 (②-①) | 先行き (③-②) | | | |
| 輸送機械 | 12.4 | → | 12.8 | → | 15.0 | (▲0.4) | 2.2 | 9.4 |
| 電気機械 | 11.5 | → | 5.8 | → | 9.4 | (▲5.7) | 3.6 | 41.2 |
| 一般機械 | 9.8 | → | 16.7 | → | 10.1 | (▲6.9) | ▲6.6 | 26.3 |
| 化学 | 8.9 | → | 9.0 | → | 11.3 | (▲0.1) | 2.3 | 16.5 |
| 鉄鋼 | 19.2 | → | 20.0 | → | 11.6 | (▲0.8) | ▲8.4 | 27.2 |

(単位: DI及びDI前期比→%ポイント、実績(前年同期比)→%)

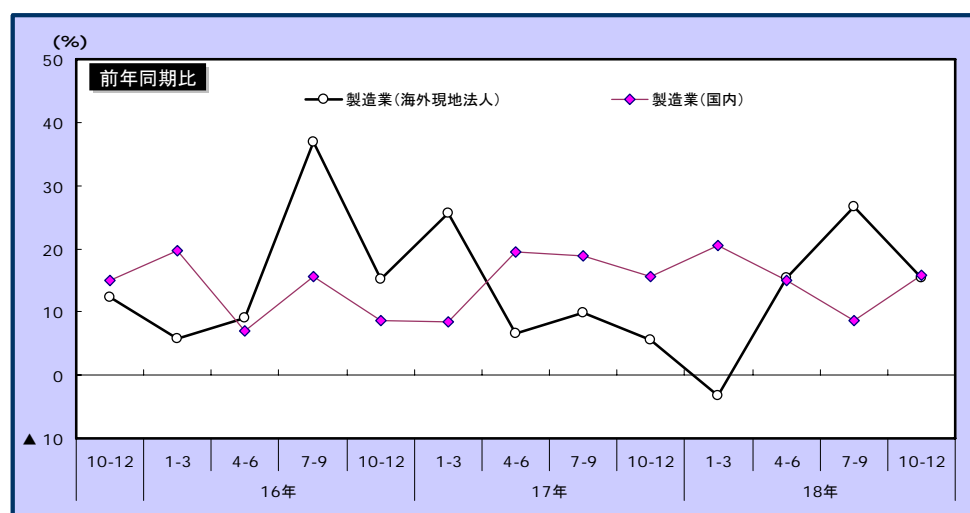
4図 設備投資DIの推移（地域別）



5図 設備投資額実績（ドルベース）の推移（地域別）



(参考) 日本及び海外現地法人の設備投資の推移



(注) 日本の設備投資額は、「法人企業統計」の有形固定資産新設額(建設仮勘定を含む) (円ベース)

3. 雇用(従業者数)

先行き DI は 8.0%ポイント、前期比 2.0%ポイントの改善を見込む。実績は、前年同期比 3.0%増と引き続き増加。

- 現状判断DI (19年1-3月)は6.0%ポイントで、前期現状判断DI (18年10-12月)に比べわずかに改善。北米及びNIEs3でわずかに悪化、その他の地域でわずかに改善。
先行きDI (19年4-6月)は、一般機械を除く業種ならびにNIEs3及び欧州を除く地域の改善により改善を見込む。中国は引き続き2桁台の水準。欧州はマイナスの水準。
- 実績 (18年10-12月)は、引き続き増加。すべての業種、北米及びNIEs3を除く地域で増加した。アジア地域 (前年同期比4.4%増)は、増加を続けているが、伸び率はやや低下。中国 (同7.1%増)は、輸送機械は引き続き大幅に増加も、一般機械の伸びの低下などから、2期連続で1桁台の増加にとどまった。ASEAN4 (同0.3%増)は伸び率を低下し、NIEs3 (同▲0.3%減)は6期ぶりに減少。欧州 (同0.1%増)は微増ながらも3期連続で増加。北米 (同▲3.3%減)は引き続き減少。

3表 従業者数のDI及び実績 (地域・主要業種別)

(単位: DI及びDI前期比→%ポイント、実績(前年同期比)→%)

| | DI | | | | | 実績 (前年同期比) |
|-----------|---------------------|-------------------|------------------|---------------|--------------|---------------|
| | 前期調査 | | | 前期比 | | |
| | ①現状判断 (18.10-12) | ②現状判断 (19.1-3) | ③先行き (19.4-6) | 現状判断 (②-①) | 先行き (③-②) | |
| 計 (地域・業種) | 5.4 → | 6.0 → | 8.0 | (0.6) | 2.0 | 3.0 |
| 北米 | 5.6 → | 4.2 → | 6.9 | (▲1.4) | 2.7 | ▲3.3 |
| アジア | 6.7 → | 7.5 → | 10.2 | (0.8) | 2.7 | 4.4 |
| ASEAN4 | 3.1 → | 3.4 → | 5.7 | (0.3) | 2.3 | 0.3 |
| NIEs3 | 1.2 → | 0.8 → | 0.4 | (▲0.4) | ▲0.4 | ▲0.3 |
| 中国 (香港含む) | 12.5 → | 13.4 → | 15.8 | (0.9) | 2.4 | 7.1 |
| 欧州 | 1.1 → | 1.9 → | ▲1.9 | (0.8) | ▲3.8 | 0.1 |

| | DI | | | | | 実績 (前年同期比) |
|------|---------------------|-------------------|------------------|---------------|--------------|---------------|
| | 前期調査 | | | 前期比 | | |
| | ①現状判断 (18.10-12) | ②現状判断 (19.1-3) | ③先行き (19.4-6) | 現状判断 (②-①) | 先行き (③-②) | |
| 輸送機械 | 10.1 → | 8.5 → | 11.2 | (▲1.6) | 2.7 | 7.9 |
| 電気機械 | 3.3 → | 4.2 → | 4.2 | (0.9) | 0.0 | 2.1 |
| 一般機械 | 9.6 → | 12.4 → | 8.7 | (2.8) | ▲3.7 | 1.5 |
| 化学 | 3.1 → | 6.1 → | 10.2 | (3.0) | 4.1 | 1.2 |
| 鉄鋼 | 3.4 → | 10.6 → | 14.8 | (7.2) | 4.2 | 14.0 |

<参考> 海外経済

世界の景気は回復している。アメリカでは、景気は緩やかに拡大している。中国では、景気は拡大が続いている。固定資産投資は、06年後半以降やや伸びが鈍化しているものの、高い伸びが続いている。シンガポール、マレーシアでは、景気は拡大している。韓国、台湾、タイでは、景気は緩やかに拡大している。ユーロ圏及び英国では、景気は回復している。(月例経済報告(平成19年3月)より)

【トピックス】

日系製造企業の日本向け輸出額、中国がASEAN4を抜き最大

貿易統計によると、日本の対北米（米国及びカナダ）と対中国（香港を含む）の貿易総額※は、平成17年に中国が北米を上回り最大の貿易相手国となった。（図1） ※輸出と輸入の合計額

そこで今回は、本調査によって、日系製造企業の日本向け輸出額の動向を見てみよう。

まず、日系製造企業の日本向け輸出額は、金額では平成14年以降も増加し続けているが、伸び率では低下している。また、貿易統計の総輸入額に占める、日系製造企業の日本向け輸出額の割合をみると、約1割強で推移している。（図2）

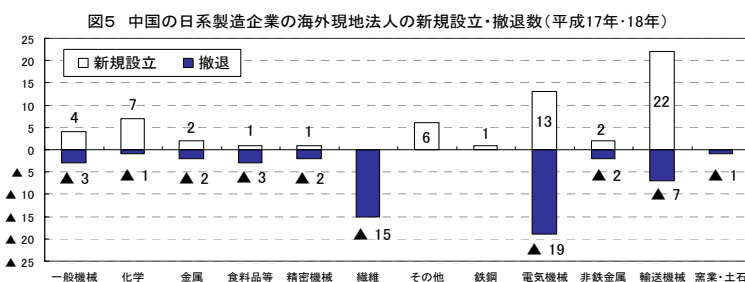
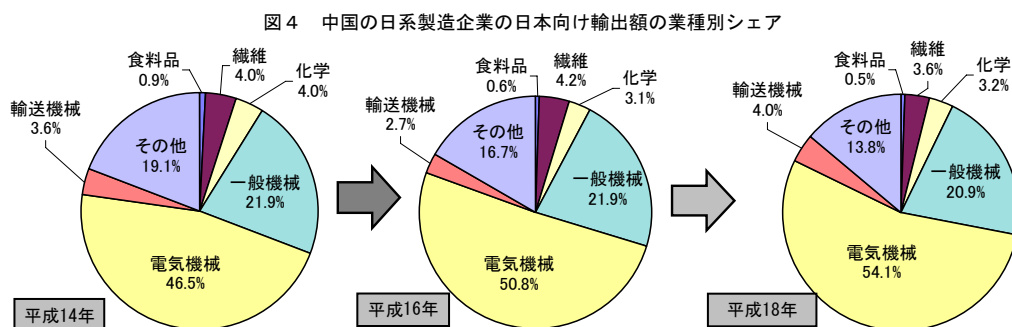
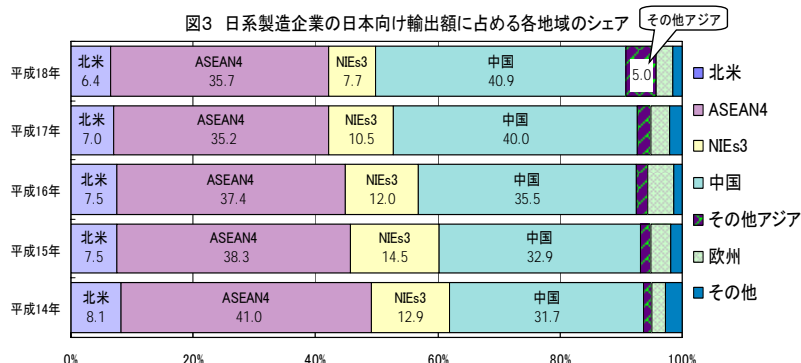
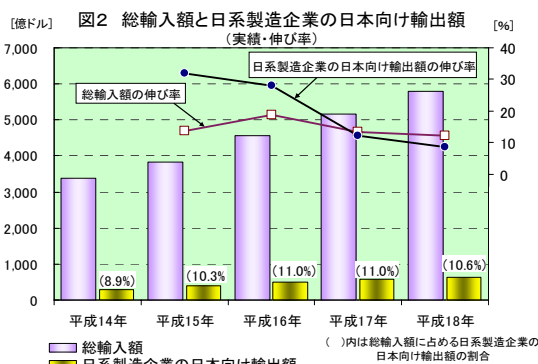
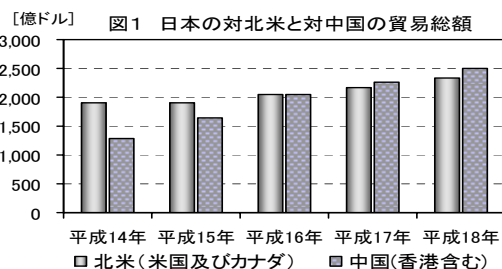
日系製造企業の日本向け輸出額を地域別にみると、平成14年は北米が 8.1%、ASEAN4が 41.0%、NIEs3が 12.9%、中国が 31.7%と、ASEAN4が最大のシェアであった。

しかし、平成17年には、ASEAN4の 35.2%に対し、中国は 40.0%とシェアは逆転し、平成18年においても 40.9%と4割を超え最大のシェアとなっている。（図3）

また、ASEAN4、NIEs3及び北米はシェアが低下したのに対し、その他アジア（ベトナム、インド等）のシェアは上昇している。

中国の日系製造企業の日本向け輸出額の業種別のシェアをみると、電気機械のシェアは、平成16年から5割を超え平成18年には 54.1%まで高まっているのが特徴。WTO加盟後の外資規制の緩和に伴い、日系製造企業が中国に進出し、中国国内の安価な労働力を背景に大量に電気機械を生産し、日本に輸出しているのがわかる。（図4）

最近2年間の中国における日系製造企業の海外現地法人の新規設立・撤退数をみると、電気機械では新規設立数は多いものの、撤退数も業種中で一番多くなっており、中国内での企業の再編等の動きが顕著になっているのがわかる。（図5）



(資料)

貿易統計は財務省の貿易統計（円ベース）を、IMFの期中平均レートにて米ドルに換算して作成。
日系製造企業の日本向け輸出額は、海外現地法人四半期調査の結果を基に作成。